

# 北大時報

February 2010

No.671

平成22年

2

## 本学職員表彰を実施

## 北海道大学一般入試の志願状況

### お知らせ

- 札幌キャンパス過半数代表候補者の決定
- 函館キャンパス過半数代表候補者の決定
- 全学停電(平成22年度)の予定
- 〈共済組合員の皆様へ〉被扶養者の認定または取消等の届出は速やかに



「森のたんけん隊2010冬」(2010.1.14~15, 関連記事24頁に掲載)

# 目 次

## 全学ニュース

- 本学職員表彰を実施…………… 1
- 北海道大学一般入試の志願状況…………… 2
- 北大フロンティア基金…………… 4
- 北海道大学企業研究セミナーの開催…………… 3
- 日中大学フェア&フォーラムに参加…………… 6
- 「若手人材育成シンポジウム“SynFOSTER 2010”」の開催…………… 7
- 北海道大学-JICA共同シンポジウム「安全な水を世界の人々に届けるための国際協力のあり方～日本の水技術を活用する方策～」を開催…………… 8
- サステナビリティ・ウィーク2009のカーボンオフセットをめざして…………… 9
- 平成21年度北海道大学学生支援担当職員SD研修を開催…………… 10

## 部局ニュース

- HUSCAPの収録文献数が3万編を突破…………… 11
- 国立大学図書館協会北海道地区協会セミナー（第1回）を開催…………… 12
- 第6回デジタルリポジトリ連合ワークショップを開催…………… 13
- （財）北水協会創設125周年を記念した「北海道の水産の源流を拓いた関係資料展示」開催…………… 14
- 「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」説明会を函館で開催…………… 15
- 東アジアメディア研究センターが、東京&札幌で国際シンポジウム「ネットが変える中国、ネットで変わる日中関係」を開催…………… 16
- グローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」、第3回国際シンポジウム「GCOE-NGIT2010（知の創出を支える次世代IT）」を開催…………… 17
- 「エコプロダクツ2009」に出展…………… 18
- 工学系教育研究センター「海外インターンシップ体験報告会」を開催…………… 19
- 大韓民国・ソウル大学校薬学大学長が薬学部を訪問… 22
- 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催…………… 23
- 真冬の森の宝を見つけたよ！-雨龍研究林で「森のたんけん隊2010冬」を開催…………… 24

- 角帽など新制大学の初期資料を大学文書館で受贈… 26
- 総合博物館土曜市民セミナー「素晴らしき国ルーマニア」が開催される…………… 27
- 総合博物館でパラタクソノミスト養成講座を開催… 28
- 北大教育GP主催公開研究会「フィンランドの『教えない教育』」開催…………… 29
- 第8回北海道大学教育GPセミナー「文化コーディネーターと町づくり」開催…………… 30
- 平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラムに参加…………… 31

## お知らせ

- 札幌キャンパス過半数代表候補者の決定…………… 32
- 函館キャンパス過半数代表候補者の決定…………… 32
- 全学停電（平成22年度）の予定…………… 33
- 〈共済組合員の皆様へ〉被扶養者の認定または取消等の届出は速やかに…………… 34

## レクリエーション

- 方円会が北大囲碁部との交流会を実施-全日本学生囲碁選手権大会に向けて「檄を飛ばす会」-… 36

## 研 修

- 平成21年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（ACCESS中級）…………… 36

## 表 敬 訪 問

- …………… 37

## 同窓会との交流

- 恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」…………… 38

## 諸会議の開催状況

- …………… 39

## 学 内 規 程

- …………… 40

## 人 事

- …………… 40

表 紙：「森のたんけん隊2010冬」（2010.1.14～15、関連記事24頁に掲載）

裏表紙：北の息吹<sup>㊤</sup>エゾルリトラノオ (*Pseudolusimachion kiusianum* ssp. *miyabei*)

## 全学ニュース

### 本学職員表彰を実施

去る1月25日(月)、総長室において「北海道大学職員表彰」表彰式が行われ、関係者列席のもと、総長から被表彰者に、賞状(盾)及び記念品(メダル)が授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において、職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

このたび表彰された方々は、永年にわたり卓越した工作技術と経験で実験装置の作製に精励された工学研究科技術専門員山保敏幸氏、ならびに永年にわたり化合物の質量測定に携わり独自に分析困難な化合物の測定技術を開発した農学研究院嘱託職員渡部賢二氏のお二人で、本学の教育研究支援に貢献されました。



被表彰者と総長ほか列席者

(総務部職員課)

# 北海道大学一般入試の志願状況

平成22年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,428名、後期日程4,235名、合計9,663名となり、昨年度と比較すると若干減少し、倍率は4.0倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日（木）、後期日程が3月12日（金）となっています。

なお、新型インフルエンザの影響による特例試験については、検討の結果、実施しないこととなりました。

各学部・系・群・専攻の志願者数は次のとおりです。

平成22年度北海道大学入学志願者数

## 一般入試

日程	学部・系・群・専攻	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度倍率		
前 期 日 程	文 学 部	148	456	3.1	4.0	489	3.3		
	教 育 学 部	43	124	2.9	4.0	114	2.7		
	法 学 部	160	404	2.5	4.0	403	2.5		
	経 済 学 部	160	549	3.4	4.0	512	3.2		
	理 学 部	数 学 重 点 選 抜 群	34	79	2.3	各 4.0	149	4.4	
		物 理 重 点 選 抜 群	64	150	2.3		145	2.3	
		化 学 重 点 選 抜 群	64	173	2.7		161	2.5	
		生 物 地 学 重 点 選 抜 群	47	127	2.7		134	2.9	
		計	209	529	2.5		589	2.8	
	医 学 部	医 学 系	92	332	3.6	5.0	348	4.1	
		保 健 学 系	看 護 学 専 攻	56	139	2.5	5.0	130	2.3
			放 射 線 技 術 科 学 専 攻	30	93	3.1		82	2.7
			検 査 技 術 科 学 専 攻	30	83	2.8		108	3.6
			理 学 療 法 学 専 攻	14	45	3.2		57	4.1
			作 業 療 法 学 専 攻	14	41	2.9		26	1.9
			小 計	144	401	2.8		403	2.8
	計	236	733	3.1	751	3.3			
	後 期 日 程	歯 学 部	35	143	4.1	6.0	138	3.9	
		薬 学 部	50	129	2.6	4.0	145	2.9	
		工 学 部	応 用 理 工 系	119	291	2.4	各 4.0	248	2.1
			情 報 工 学 系	150	391	2.6		378	2.5
			機 械 知 能 工 学 系	100	243	2.4		238	2.4
			環 境 社 会 工 学 系	174	475	2.7		476	2.7
計		543	1,400	2.6	1,340	2.5			
農 学 部		159	336	2.1	4.0	393	2.5		
獣 医 学 部		20	120	6.0	6.0	140	7.0		
水 産 学 部		164	505	3.1	4.0	492	3.0		
合 計	1,927	5,428	2.8	5,506	2.9				
後 期 日 程	文 学 部	37	335	9.1	6.0	375	10.1		
	教 育 学 部	5	109	21.8	10.0	104	20.8		
	法 学 部	40	398	10.0	6.0	360	9.0		
	経 済 学 部	20	196	9.8	10.0	225	11.3		
	理 学 部	数 学 重 点 選 抜 群	13	128	9.8	各 6.0	145	11.2	
		物 理 重 点 選 抜 群	17	120	7.1		142	8.4	
		化 学 重 点 選 抜 群	17	148	8.7		180	10.6	
		生 物 重 点 選 抜 群	14	177	12.6		146	10.4	
		計	61	573	9.4		613	10.0	
	医 学 部	医 学 系	15	212	14.1	10.0	225	15.0	
		保 健 学 系	看 護 学 専 攻	14	107	7.6	各 6.0	101	7.2
			放 射 線 技 術 科 学 専 攻	7	33	4.7		51	7.3
			検 査 技 術 科 学 専 攻	7	60	8.6		69	9.9
			理 学 療 法 学 専 攻	4	29	7.3		25	6.3
			作 業 療 法 学 専 攻	4	32	8.0		16	4.0
			小 計	36	261	7.3		262	7.3
	計	51	473	9.3	487	9.5			
	後 期 日 程	歯 学 部	15	85	5.7	6.0	171	11.4	
		薬 学 部	20	178	8.9	6.0	207	10.4	
		工 学 部	応 用 理 工 系	30	276	9.2	各 6.0	242	8.1
			情 報 工 学 系	30	249	8.3		296	9.9
			機 械 知 能 工 学 系	20	201	10.1		179	9.0
			環 境 社 会 工 学 系	36	364	10.1		390	10.8
計		116	1,090	9.4	1,107	9.5			
農 学 部		45	349	7.8	6.0	388	8.6		
獣 医 学 部		20	156	7.8	6.0	170	8.5		
水 産 学 部		35	293	8.4	6.0	321	9.2		
合 計	465	4,235	9.1	4,528	9.7				
総 計	2,392	9,663	4.0	10,034	4.2				

注：前期日程の医学部保健学系は、第1志望による志願者数

(学務部入試課)

## 北海道大学企業研究セミナーの開催

キャリアセンターでは、学生の就職支援の一助として、北海道大学連合同窓会と協力して、平成21年12月1日(火)～8日(火)、12月14日(月)～12月22日(火)及び平成22年1月6日(水)～15日(金)のうち22日間にわたり、平成21年度「北海道大学企業研究セミナー」をクラーク会館において開催しました。

本年は415社(昨年:445社)の企業に参加いただき、期間中には延べ23,180名(昨年:22,093名)の学生が足を運び、企業の人事・採用担当者からの業界・企業・就職情報等の説明に熱心に耳を傾け、質問等を行っていました。

また、昨年に引き続き、「留学生相談コーナー」をあわせて設置して、当日セミナーに参

加する企業の一部が、留学生のために企業情報を提供するなど、採用に関する留学生の個別相談に応じました。

さらに、セミナー終了後には、企業の人事・採用担当者と学生との交流の場として「情報交換会」を開催しました。1月7日(木)には佐伯総長、脇田理事・副学長、1月14日(木)には高杉理事・事務局長も人事・採用担当者と学生の輪に加わり、打ち解けた雰囲気の中で懇談しました。

本セミナーは、各企業及び諸団体等の絶大なご協力を得て開催されたものであり、関係各位に感謝申し上げます。



企業の担当者の説明に熱心に耳を傾ける学生



情報交換会で学生と懇談する佐伯総長

(学務部キャリアセンター)

## 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、法人化後の厳しい財政状況の下、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自律性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしています。平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

### 【北大フロンティア基金情報】

基金累計額 (1月31日現在)

9,011件 1,368,961,251円

教職員の寄附率 23.4% (905件/3,874人)

### <1月のご寄附状況>

法人等2社、個人78名の方々から2,928,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名

#### (法人等)

株式会社ウチダシステムソリューション、株式会社内田洋行

#### (個人)

五十嵐 学, 石川 雄一, 上野 祐輔, 大畑 昇, 大類 晋, 小川 晃一, 小内 透,  
小原 恭子, 角 幸博, 金井 美江, 金燕金東煥, 齋藤 正昭, 坂井 淳一, 杉浦 秀一,  
瀬名波栄潤, 高橋 カツ, 高橋 純子, 高橋 光彦, 土家 琢磨, 鶴木 貞男, 寺澤 睦,  
所 伸一, 豊田 威信, 成田 智彦, 野坂 政司, 秦 順子, 早坂 孝一, 藤井 義仁,  
前田 敦, 三浦 敏明, 三澤 直人, 山崎 賢司, 山中 洋, 吉田 広志, 渡辺 和愛

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(法人等)

株式会社ウチダシステムソリューション, 株式会社内田洋行

### ご寄附のお申し込み方法

#### ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ

教職員向け

学内限定情報・システム

北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

#### ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

#### ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ ——— 基金事務室(事務局1階・学内電話2012/2017)

(基金事務室)

## 日中大学フェア&フォーラムに参加

JST中国総合研究センター、日本学術振興会、中国留学服務中心が主催する『日中大学フェア&フォーラム「変貌する日中の大学—グローバル大競争・連携時代を迎えて—」』が、1月29日（金）・30日（土）に東京国際フォーラムで開催されました。

日中大学フェア&フォーラムは、研究教育基盤の整備や国際化、産学連携等の新たな取り組みがそれぞれ進められている日中大学全体に向け俯瞰的な交流の場を提供することにより、両国の大学の新たな動きに対する最新の情報を提供すると同時に、研究協力をはじめとする両国の大学の協力・連携の更なる推進を目指すことを目的としております。

今回の日中大学フェア&フォーラムは、日本側50校と中国側42校が参加する日中の大学に

よるイベントとしては過去最大規模のものであり、各大学などによる展示のほか、日中大学学長、副学長クラスの方々（中国側：学長・副学長30名、日本側：学長・副学長15名）による「大学とサイエンスパーク」、「大学の研究戦略」、「大学の国際戦略」などのテーマに関する講演やパネルディスカッションが行われ、日中の大学の動向に関する最新の情報が提供されました。

本学からは、産学連携本部、国際交流室が協力し、本学と中国との関係に関するパネルや産学連携システムに関するパネルを展示するとともに、日中科学技術・教育、産学官連携に関する最新の報告書等を多数配布し、本学と中国との関わりを十分にPRすることができました。



北海道大学ブース風景



来場者への説明風景

(産学連携本部)



## 「若手人材育成シンポジウム“SynFOSTER 2010”」の開催

2月1日(月)に本学学術交流会館において「若手人材育成シンポジウム“SynFOSTER2010”」を開催しました。

本シンポジウムは、本学が展開する多様な若手研究者人材育成プログラムが互いの“音”を聴き合い、響き合い、北大らしい力強いシンフォニーを発信するとの意味を込めたもので、2回目となる今年度は「大学の教育改革につなげる若手研究人材の育成－社会との連携－」をテーマに行いました。

シンポジウムでは、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 今泉柔剛氏、帝人株式会社新事業開発グループ研究企画推進部長

平坂雅男氏からの基調講演のほか、本学における「若手研究人材の育成」や「魅力ある大学教育」に関する取組紹介がなされ、24機関37名の学外参加者も含めた約160名の参加者とともに今後の大学教育ならびに若手研究人材の育成について話し合いました。

第3部のポスターセッションでは、約30事業の出展者からのショートトーク発表を始めとし、参加者間で活発な意見交換や情報共有が行われ、大盛況の中、終えることができたと同時に、本学独自の一貫した人材育成システムの構築に大きく寄与するものとなりました。



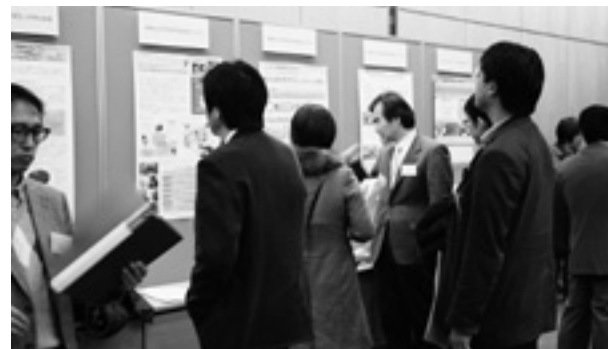
文部科学省 今泉柔剛氏



帝人(株) 平坂雅男氏



シンポジウム会場の様子



ポスターセッションの様子

(人材育成本部)

## 北海道大学－JICA共同シンポジウム「安全な水を世界の人々に届けるための国際協力のあり方～日本の水技術を活用する方策～」を開催

12月11日（金）、百年記念会館において北海道大学－JICA 共同シンポジウム「安全な水を世界の人々に届けるための国際協力のあり方～日本の水技術を活用する方策～」を「持続可能な開発」国際戦略本部と工学研究科が実施主体となって開催しました。本学は平成17年4月にJICAと連携協定を締結し、また同年11月には「持続可能な開発」国際戦略本部を立ち上げ、人類が喫緊に取り組むべき5つの課題についての研究と教育に力をいれて取り組んできました。このシンポジウムはこれら2つの取り組みが5年の節目となることを記念して開催されたものです。命あるものにとって欠かせない水の持続可能性に関して、多様な関係者の方々と意見を交換し、本学からの提言をまとめることを目的としました。

シンポジウムでは、本堂理事・副学長の挨拶の後、はじめに工学研究科の船水尚行教授が講演を行いました。講演では、現在の日本及び世界で使用されている水システムの仕組みを紹介し、それらの仕組みを開発途上国にそのまま移転する際に生じる課題について解説しました。特に排水処理や衛生設備については、利用者にとってその価値が見えにくいいため、システムづくりに工夫が必要だという現状を説明しました。そして、それらの課題を踏まえ、地域の文

化や伝統、社会に適合した水技術を、将来を見据えて選択し施策する必要性や、水供給系と排水系では見方を変える必要があること、人が排出するし尿を資源化し、循環に取り組む姿勢が必要なこと、そして先進国と途上国とで共通の目標・ゴールを立てるべきであることを、本学からの提言としてJICAに提示しました。

講演の後は、メディア・コミュニケーション研究院の鍋島孝子准教授の司会により、パネルディスカッションが行われました。国際政治・アフリカの専門家、水の開発支援の専門家、元ユニセフ職員、JICAのプロジェクト担当者その他、インドネシアの汚水技術の専門家など、国際開発協力に係る関係者7名が、船水教授の提案に対して意見交換を行いました。会場からは学生を中心に質問や提案が相次ぎ、2時間に渡るパネルディスカッションは活気に溢れるものとなりました。この成果は、後日提言書としてまとめることとしています。

シンポジウムの最後にJICA 札幌の外川所長より、今後も北海道大学と北海道にある豊富な人的・知的資源を国際協力に活用していきたいとの挨拶をいただき、閉会しました。

当日は、学内から47名、学外から23名の参加があり、席が足りなくなるほどの盛況な会となりました。



工学研究科 船水教授の講演



活発な質疑応答が行われた

提言書の内容は以下のウェブサイトにて公開いたします。

Hokudai Network for Global Sustainability <http://www.sustain.hokudai.ac.jp/>

(学術国際部国際企画課)

## サステナビリティ・ウィーク2009の カーボンオフセットをめざして

本学は、サステナビリティ・ウィーク期間中に排出した二酸化炭素を、北方生物圏フィールド科学センターの研究林の森林整備を通して吸収させる取り組みを、2008年から進めています。

サステナビリティ・ウィーク期間中には、様々な国際シンポジウムや市民向けの講演会、展示が行われ、これらの活動を通して二酸化炭素が排出されましたが、大きくは空調・電気使用など会場使用によるもの、航空機利用など参加者の旅行に伴うものに分けられます。サステナビリティ・ウィーク2009期間中に排出された二酸化炭素の量を算出すると、約1,110トンになります。

京都議定書によると日本の場合、森林を整備することが二酸化炭素の吸収源として認められ

ています。枝が混みすぎて不健全な森林を除伐することによって、樹木の成長を促進させることができることから、除伐以降の成長が吸収量に相当します。

このルールに依拠して北海道大学は、人工林の除伐を行うことで、二酸化炭素を森林に吸収させ、二酸化炭素排出量の低減を図ります。具体的には、天塩研究林のアカエゾマツ人工林約15.29ヘクタール、中川研究林のアカエゾマツ人工林約1.41ヘクタール、トドマツ人工林約5.48ヘクタール、雨龍研究林のアカエゾマツ人工林約6.14ヘクタールを2010年の冬に除伐します。除伐後には、モニタリングを継続的に行い、吸収量が計画を下回った場合は追加的な措置を講じます。

### カーボンオフセットのための除伐域と吸収量

場 所	除伐対象面積 (ヘクタール)	樹 種・林 齢	5年間の吸収予想量 CO <sub>2</sub> トン
天塩研究林(幌延町)	15.29	アカエゾマツ32年生	622.3
中川研究林(音威子府村)	1.41	アカエゾマツ40年生	50.7
	5.48	トドマツ40年生	196.9
雨龍研究林(幌加内町)	6.14	アカエゾマツ24年生	272.4
合 計			1,142.3



今回除伐対象の中川研究林のアカエゾマツ人工林の写真

(北方生物圏フィールド科学センター、「持続可能な開発」国際戦略本部)

## 平成21年度北海道大学学生支援担当職員 SD研修を開催

平成21年度北海道大学学生支援担当職員SD研修を、平成21年12月17日（木）及び平成22年1月13日（水）の2日間にわたり、高等教育機能開発総合センター会議室において開催しました。

この研修は、本学の学生支援担当事務職員を対象に、学生指導、学生支援及び学生サービス業務を適正かつ円滑に処理するために必要な基本的知識や対応能力等を習得することにより、学生支援担当職員としての資質を向上させるため、平成20年度から開催しているものです。

今回は、前年度に引き続き、株式会社アムリプラザから講師を招き、第1回目は『顧客思考に根ざした接客研修・基本編』と題して、接客の果たす役割と意義、接客マナーの基本、電話対応の演習等を行い、第2回目は『ワンランクアップ接客研修』と題して、主にクレーム対応

に関するグループ演習とパターン別の応答話法等を行いました。

第2回目の研修終了後には、長澤貢一学務部長から、計15名の受講者のうち2日間受講した11名に対して「修了証書」が授与されました。

第1回目と第2回目の期間を空けて開催した理由は、第1回目受講終了後、実際の業務において研修内容を実践し、その上でワンランクアップの第2回目を受講することにより、高い研修効果を狙ったものです。

受講者からのアンケート回答では、「実践的で今後の業務に大いに役立つ」、「クレーム対応の手順がよく分かり大変勉強になった」、「学生支援業務担当職員全員が受講すべき」等の好評な声が寄せられました。

本研修は、次年度以降も、さらに内容を充実して継続的に開催することとしております。



研修の様子



長澤学務部長からの修了証書授与の様子

(学務部学生支援課)

## 部局ニュース

# HUSCAPの収録文献数が3万編を突破

平成21年12月24日、「北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)」の収録文献数が30,000編に達しました。30,000編目の文献は、

工学研究科環境循環システム専攻博士課程の高田迪彦さんと藤井義明教授による以下の論文でした。

Michihiko Takada and Yoshiaki Fujii

An Experimental Study on Permeability of Kimachi Sandstone in Deformation and Failure Process under Deviator Stress.

*Proceedings of the 3rd International Workshop and Conference on Earth Resources Technology, 2009*, pp.124-131 (<http://hdl.handle.net/2115/40224>)

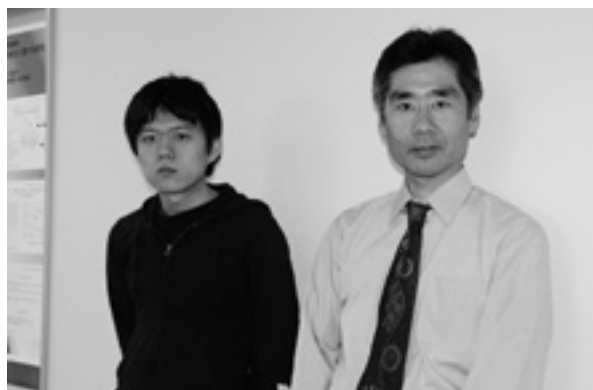
### 高田さんからのコメント

「今回の論文は、岩石の室内実験に関するものです。岩石が圧縮されて壊れる過程で透水係数がどのように変化するかを調べました。HUSCAPに掲載された論文を、共通した分野の方などに役立てていただければ幸いです。」

### 藤井教授からのコメント

「岩盤の中の水の流れは、有害物質が流出するだけでなく、岩盤の安定性にも影響しますので、廃棄物の地層処分や各種地下構造物の設計に非常に重要な情報となります。高田君の研究は、1回壊れて水を通しやすくなった岩盤が、次第に元に戻る過程を研究したもので、この現象を応用すると廃棄物を安全に安く処分できる可能性があります。」

この論文については、高田君と似たような世界の若い研究者に読んでもらいたいですが、これに限らず、学際的な研究成果のリアルタイムな発信のためにHUSCAPを大いに利用させていただこうと思っています。」



高田迪彦さん(左)と藤井義明教授(右)

附属図書館では、論文等の研究成果のHUSCAPへの搭載をお待ちしています。

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>

(附属図書館)

## 国立大学図書館協会北海道地区協会セミナー (第1回) を開催

2月4日(木)、5日(金)の2日間にわたって、北海道大学附属図書館大会議室において、国立大学図書館協会北海道地区協会セミナー「次世代ライブラリアンシップのための基礎知識 第1回」が開催され、学内外から87名の参加がありました。

このセミナーは、国立大学図書館協会地区協会助成事業として開催されたもので、1日目は、「電子ジャーナル契約の諸相」(講師：東京大学附属図書館情報管理課長尾城孝一氏)と「最新認証技術による電子ジャーナル利用」(講師：国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課阿蘇品治夫氏)の2つの講演の後、北海道内の6つの国立大学図書館から、事例報告がありました。

2日目は、本学観光学高等研究センター准教授山村高淑氏による「地域側・研究者側からみた機関リポジトリ活用のニーズと可能性」と題した講演の後、逸見館長をコーディネーターとして講師3氏によるパネルディスカッション「より良い学生サービスを目指して～求められる図書館職員の資質」が行われ、氾濫する電子化された情報を学習に利用する方法について図書館と教員が連携してどのように学生を教育していくか等について、熱心な意見交換が行われました。

なお、講師3氏の当日配布資料は、<http://janul-hokkaido.lib.hokudai.ac.jp/>からご覧いただけます。



尾城孝一氏の講演



阿蘇品治夫氏の講演



山村高淑氏の講演



パネルディスカッションの様式

(附属図書館)

## 第6回デジタルリポジトリ連合ワークショップを開催

2月5日(金)、附属図書館が代表をつとめる「デジタルリポジトリ連合」は、国内における機関リポジトリ(HUSCAPと同種のシステムの総称)の数年間の歩みを総括し、今後を展望する「第6回デジタルリポジトリ連合ワークショップ」を開催し、全国の大学・研究機関から91名が参加しました。

前半セッションでは、人材養成の取り組み、技術情報の普及状況、利用拡大方策、学会出版との関係、図書館活動との関係、地域コミュニティの形成のあり方、国際連携などの取り組みについて報告があり、後半セッションでは、これらを踏まえ、今後の(1)大学・研究機関に

おける教育研究成果公開促進のための制度設計、(2)国際連携の推進、(3)事業運営のための職員配置、人材養成などについて活発に議論されました。

同日、デジタルリポジトリ連合は運営体制の整備を行い、(1)担当者研修等を通じた人材養成、(2)海外への学術成果発信促進のための国際連携基盤整備、(3)大学図書館関連団体等との連絡調整などを通じ、機関リポジトリの発展を支援していくことが確認されました。本学逸見勝亮附属図書館長が運営委員長に就任しました。



(附属図書館)

## （財）北水協会創設125周年を記念した 「北海道の水産の源流を拓いた関係資料展示」開催

水産学部図書館1階ホールの「水産学部創基100周年記念展示室（山崎ギャラリー）」において、北海道大学水産学部と財団法人北水協会の共催により、「北海道水産業の歴史と共に歩んできた北水協会125年の足跡 - 創設者“伊藤一隆”の活動記録を中心として - 」と銘打った記念展示を1月13日（水）から2月25日（木）までの期間で開催しました。

財団法人北水協会は、財団の事業のひとつとして水産学術への研究助成を行っています。本学部でも多くの教員がこの助成金の交付を受

けて研究を進めているほか、本学部では創設者“伊藤一隆（札幌農学校1期生）”の卒業証書の原本を所蔵しているなど、本学部と同協会とは浅からぬ関係にあります。

今回の展示では、このように本学部と関係が深い財団法人北水協会が創設125年の節目を迎えたことを記念して同協会が保有する資料等を公開・展示し、同協会の変遷や創設者である“伊藤一隆”に関わる資料などを通して、北海道における水産の歴史を辿ることができる内容となっています。



催し物案内と入口風景



展示風景（その1）



展示風景（その2）



“しょこたん”は一隆の玄孫！

（水産科学院・水産科学研究所・水産学部）



## 「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」 説明会を函館で開催

去る1月23日(土)、水産科学研究院では、今年度採択された科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」事業の一環として、4月から開講する人材養成プログラム「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」の説明会を函館市元町にある老舗レストラン「五島軒」本店で開催しました。

本企画は、平成22年度受講生募集(1月25日(月)～2月12日(金))に先立ち、広く市民の皆さんに本事業を事前に知ってもらい、受講生としてより多くの方に応募してもらうことを目的としています。

函館市が産学官連携で提唱する「函館国際水産・海洋都市構想」の実現に向けて、本事業は、水産・海洋に関する幅広い知識や技術を持ち、地域の企業や漁業者などと学術研究機関を結びつけ、産学官の強力な連携を促進する役割を果たす「水産・海洋コーディネーター」を、また、構想推進に関する企画イベント等で活躍する市民応援団「海のサポーター」を養成し、地域の活性化に貢献できる人材を輩出するため

の事業です。

説明会では、初めに函館市国際水産・海洋都市推進室 藤田秀樹室長が本構想と地域の活性化について述べられた後、運営委員長の安井肇准教授が、「持続可能で豊かな水産・海洋都市の形成、地域再生を実現するのに函館は非常に適している地域である」とし、これに貢献する人材養成の必要性を説明しました。株式会社五島軒の若山直社長は、「ペリー来航により箱館は開港し、その数年後には日本初の洋式帆船「箱館丸」を函館の船大工は作り上げてしまった」と、当時の函館の高い造船技術の話題などをおりまぜて、「海に囲まれた函館の過去・現在・未来」と題し、函館を魅力的に語っていただきました。

当日は幅広い年齢層の方が来場し、募集要項、カリキュラム、また、将来の函館の街づくりについて活発な質疑応答が展開されました。参加者は予想を上回り、会場が手狭となるほどに盛況裏に終了しました。



事業について説明する安井肇准教授



函館について熱演する(株)五島軒 若山直社長



熱心に聴講する参加者

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

## 東アジアメディア研究センターが、東京&札幌で国際シンポジウム「ネットが変える中国, ネットで変わる日中関係」を開催

メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター（センター長：渡邊浩平教授）は、外務省の日中研究交流支援事業の助成を得て、1月19日（火）、東京・大手町の経団連会館で、国際シンポジウム「ネットが変える中国, ネットで変わる日中関係」を開催しました。

本シンポジウムは、中国から社会科学院新聞与傳播研究所の研究者、人民日報社網絡中心輿情観測室のネット世論の調査・分析スタッフやメディア研究者のみならず、ネットを通じて活発な発言をしているジャーナリストやクリエイターを招聘し、中国におけるネットの置かれた多様な局面を明らかにし、さらに、今後の日本と中国のコミュニケーションのあり方について議論を深めようとするものです。企業・団体の中国担当・広報担当者、メディア関係者、研究者など約200名が参加しました。

第一部では、中国はネットにどう対処しているのかというテーマで、中国社会科学院新聞与傳播研究所の尹韵公・所長、人民日報社網絡中心輿情観測室の單学剛・副秘書長に、中国のインターネット事情と中国政府の対応等について報告がありました。

第二部では、ネットは中国社会に何をもたらすのかというテーマで、南方都市報の張平・主席研究員から、ネットを活用したゴミ焼却場建設をめぐる市民運動の盛り上がりの事例について報告がありました。また、ショート・フィルムクリエイターの胡戈氏からは、中国のネット

上で大きな注目を集めたパロディ・ショートフィルムとその可能性について報告がありました。

第三部では、北京外国語大学国際新聞与傳播系の展江教授から、ネット世論について詳細な報告があり、それを受け、尹所長のほか、東京新聞の清水和美論説副主幹、メディア・コミュニケーション研究院の高井潔司教授、渡邊浩平教授がパネリストに加わり、インターネットの発展と新たな日中間コミュニケーションというテーマで活発な討論が行われました。

本シンポジウムでは、中国においてインターネットが、社会的言論空間の一翼を担っており、ネットに溢れるその巨大なエネルギーを体感しました。直前に検索エンジン大手のグーグルによる中国撤退問題も話題に上っていたため、本シンポジウムでは非常にタイムリーに、中国のインターネット事情と、ネット世論に関する最新の動向が紹介され、参加者からも非常に高い関心が集まりました。会場からも積極的な発言があり、大盛況のうちに終えることができました。

また、21日（木）には、中国からの招聘者一行を北海道大学に招き、百年記念会館で同様のシンポジウムを行いました。特にパネルディスカッションの代わりとして、大学院国際広報メディア・観光学院の特別演習（東アジアメディア論）受講の修士学生による中国インターネット関連の研究発表も行われ、相互の研究交流が図られました。



（国際広報メディア・観光学院、  
メディア・コミュニケーション研究院）

## グローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」, 第3回国際シンポジウム「GCOE－NGIT2010（知の創出を支える次世代IT）」 を開催

1月18日（月）から20日（水）の3日間にわたり、学術交流会館において、グローバルCOEプログラム「知の創出を支える次世代IT基盤拠点」（拠点リーダー：有村博紀）の主催による第3回国際シンポジウム「GCOE－NGIT2010（知の創出を支える次世代IT）」が開催されました。

シンポジウムは、小柴正則情報科学研究科長の開会挨拶で幕を開け、続いて国内外の第一線の研究者を招いた情報・生命科学の各分野に関わる基調講演のほか、特に優秀な成果を上げた博士後期課程学生による学生選抜セッションが行われました。

本プログラムでは、拠点形成の大きな柱として異分野共同研究を掲げており、本年度は、上記の基調講演と、学生選抜セッションに加え

て、情報分野とナノ分野の異分野共同研究をテーマとしたパネル討論や、拠点メンバーによる異分野共同研究プロジェクトに関わる講演も行われました。さらに、情報科学研究科の博士後期課程に在籍する大学院生とPDによる85件のポスターセッションが行われ、来客も交えて、活発な討論が交わされました。

本シンポジウムは、企業及び学外からの参加者も含め、延べ300名以上の参加者を迎えて、活気あふれる国際シンポジウムとなりました。関連して、シンポジウム後にグローバルCOE主催ポストワークショップが、1月20日（水）から21日（木）の2日間、北海道大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーにおいて開催されました。



基調講演の様子



ポスターセッションの様子

(情報科学研究科)

## 「エコプロダクツ2009」に出展

環境科学院と公共政策大学院で展開している北海道大学「持続可能な低炭素社会づくり」プロジェクトでは、多様化する環境問題の解決に向けて分野横断的な知見や手法を以って対処できる専門家・実務家の養成を目的とする共通教育プログラムを提供しています。

主な活動は、北海道における再生可能エネルギーの普及促進、地域社会の温室効果ガス排出削減に向けた研究提言、また、札幌キャンパスの環境負荷低減を目指すエコキャンパス活動などです。そして今回は初めての試みとして、これらの教育・研究活動の取り組みを学外に発信するため、去る12月10日（木）から12日（土）の3日間、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2009」にブース出展しました。

「エコプロダクツ」は、出展数700余、来場者数が18万人にのぼる、日本最大級の環境展示会で、今回で11回目を数えます。ブース出展の企画・運営は、環境科学院の大学院生と北大生協学生組織委員会所属の学部生15名が担当し、「北大環境科学院 ごみ削減プロジェクト」・

「Toward Tree Green 北大エコキャンパスへの取り組み」・「北海道大学生生活協同組合 環境対策の取り組み」など8つのテーマについてそれぞれA0サイズのポスターにまとめて展示・説明を行いました。また、多様な来場者に対して柔軟な対応をするため、留学生2名を中心とする英語・中国語対応スタッフや、キッズ対応のスタッフを配置しました。

出展期間中には環境教育に興味があるたくさんの方に来場いただき、本学の研究・教育を知っていただく良い機会になったとともに、企画・運営にあたった学生にとっても、他機関の環境対策の取り組みを知る機会を得て、大きな刺激となりました。

本プロジェクトの実施期間は3年間の予定で、来年が最終年度になります。来年度も本プロジェクトが主体となり、「エコプロダクツ2010」にブース出展することを計画しており、今後も本学が伝統的に強みを持つフィールド科学を中心とする最新の研究成果を効率よく発信していく予定です。



出展ブースにて運営委員の集合写真

(環境科学院・地球環境科学研究院)

## 工学系教育研究センター 「海外インターンシップ体験報告会」を開催

10月5日(月)及び12月15日(火)の2回にわたり工学系教育研究センター(CEED)の主催で「海外インターンシップ体験報告会」を開催しました。

CEED工学系教育研究センターにおける、創造的・実践的人材育成を支援する教育プログラムの内、海外長期インターンシップ派遣は、基礎学術と産業社会の関係、広範囲な技術分野への対応性、国際的な場での活動能力、リーダーシップやコミュニケーション能力の重要性を学ばせる中核となる教育事業に位置付けております。平成21年度の海外インターンシップ研修生

の派遣先(1月末現在)は、36名中7名が企業、26名が大学、3名がその他の公的機関であり、平均研修期間は2.7カ月(平成20年度実績)になっております。各派遣学生の研究テーマは、実験、解析・計算、ソフト作成、調査、試作・評価など多岐にわたっています。

5年間の世界各地とのインターンシップ交流実績を派遣と受入れの双方について図-1に示します。その結果、平成17年4月のCEED発足以来、海外へ派遣した学生総数は5年間で30カ国125名、受入れ学生数は32カ国120名に達しています。

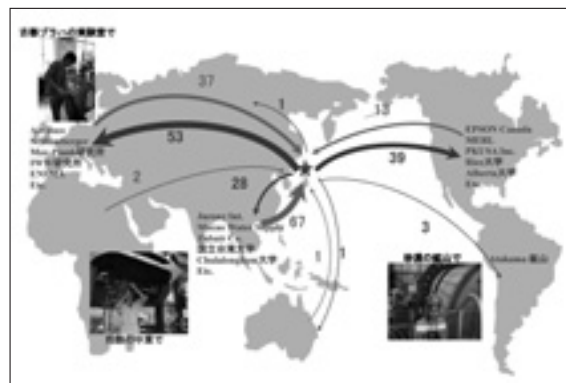
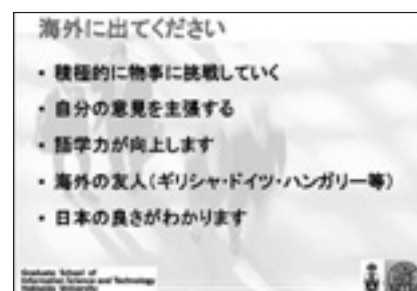


図-1 海外インターンシップ派遣及び受入実績(平成17年度～平成21年度)

以上の状況において、以下に平成21年度の成果報告から幾つかの事例の紹介と、教育効果に関する成果の一端について報告します。

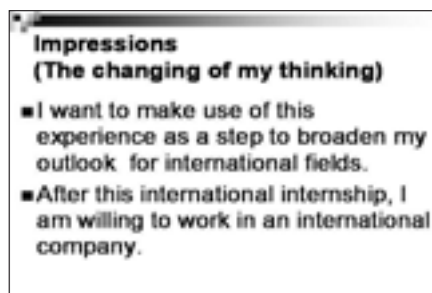
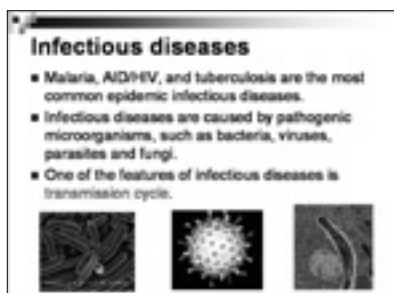
### (1) 事例1：システム情報科学専攻修士課程2年，男子，派遣国：カナダ，派遣期間：約2ヶ月，トロント大学

与えられた研究テーマは、画像の平滑化、鮮鋭化、エッジ処理など、顔の認識に関する2次元画像処理技術に関する研究でした。海外で生活することは苦勞が多いが達成感もあり、海外生活の現実を知ることができる、日本も世界180カ国のうちの1カ国であり価値観や考え方に多様性を知ることができる、外国の友人を通して生きた英語を学べる、ことなどを体験した。それらの体験から、積極的に物事に挑戦していく力、自分の意見を主張する力を養うことができ、日本の良さがわかるので是非海外へ出ることを勧めています。



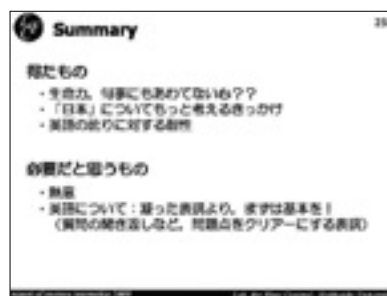
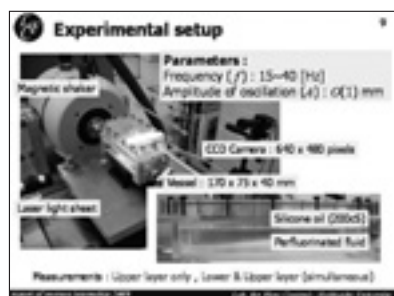
(2) 事例2：環境フィールド工学専攻修士課程1年，男子，派遣国：アメリカ，派遣期間：約2ヶ月，オハイオ州立大学

研究テーマは、コレラ、マラリア、デング熱、ウエストナイル熱などの症状や対策について調べるとともに、伝染病の伝染経路において水の役割を解明するための調査研究でした。体験で得られた成果として、自分の学力や、日本の文化・習慣を第三者的な立場から見る事ができたことです。そのような視点から自分を見直すことで、帰国後にいろいろな意欲が湧き、学力を含めて個人のスキルを高めていきたいという意欲が湧いたとのこと。在学期間中に一度学外で勉強を試みることを勧めています。



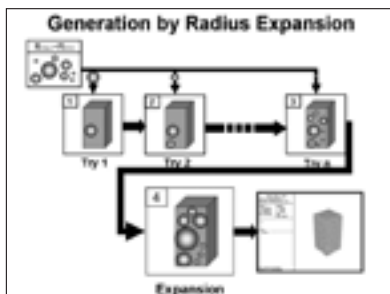
(3) 事例3：エネルギー環境システム専攻修士2年，男子，派遣国：イギリス，派遣期間約2ヶ月，マンチェスター大学

参加プロジェクトのテーマは、水と油のように互いに混ざらず二層になった流体を透明な箱に入れ、水平方向に振動させた時に生じる波の界面現象について粒子画像流速測定解析法を活用して解析する研究でした。受入れ指導教員と共著で論文投稿するまでに大きな成果が得られたとのこと。海外生活で、様々な国の人々との会話による異文化交流体験が貴重であっただけではなく、英語力向上にもつながったそうです。インターンシップ体験で得たものは「何事にもあわてない心＝生命力」，「日本についてもっと考えるきっかけ」であり、必要だと思うものは「熱意」などでした。



#### (4) 事例4：環境循環システム専攻修士1年，男子，派遣国：ポーランド，派遣期間：2ヶ月，シレジアン工科大学

研究テーマは、岩盤を微粒子の集合体として取扱い、粒度分布、粒子間の結合力、空隙などをパラメータとしたコンピュータシミュレーションを活用し、岩盤の圧縮試験における試料の変形・破壊挙動を予測する研究でした。海外インターンシップ体験で得た最も貴重なものは、「国際化社会において、英語は自分の意思を伝えるための貴重なツールであるが、本当に重要なことは英語を話せることではなく相手を知ることであり、相手を知るとは自分を知ること、自分を知るとは生きる目標を知ることであることを認識できたことである！」と報告しています。



最後に、海外でのプロジェクト型インターンシップを体験した2008年度と2009年度の派遣学生22名の調査によれば、異文化理解、問題把握発見能力、チャレンジ精神など、多くの能力資質について著しい向上効果がありました。その具体例として、インターンシップ派遣前と派遣後の参加学生の12項目の資質向上について集計した結果を図-2に示しますが、派遣前では82%の学生が「平均的」以下であったのが、派遣後には73%が「やや優れている」、「かなり優れている」に向上致しました。これら海外インターンシップ派遣の教育効果が極めて高い成果を踏まえ、CEEDは2010年度から海外インターンシップ学生派遣と受入れを大幅に増やす事業に着手します。

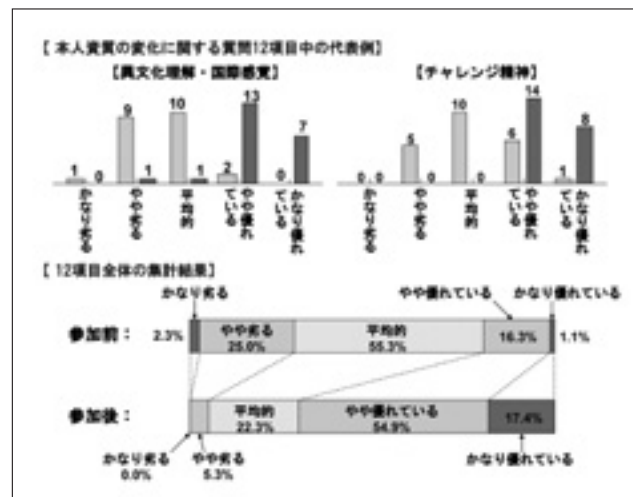


図-2 海外インターンシップ派遣の教育効果（平成20年度と平成21年度の派遣学生22名）

(工学研究科・情報科学研究科・工学部)

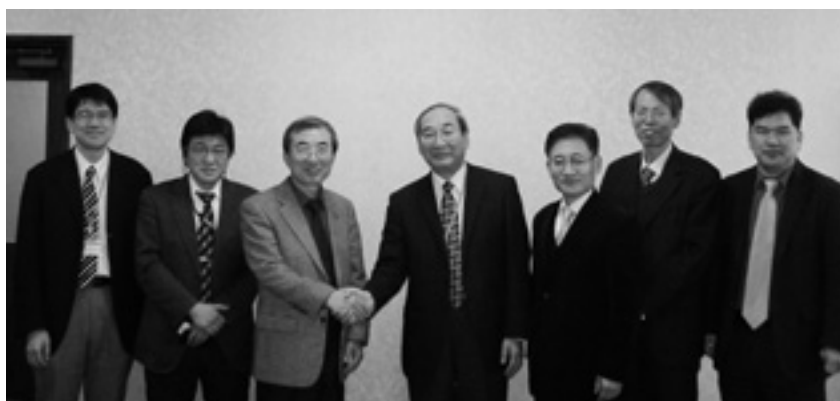
## 大韓民国・ソウル大学校薬学大学長が薬学部を訪問

本学と大学間交流協定校である大韓民国・ソウル大学校薬学大学のSuh, Young-Ger大学長, Heung-Geun Park副大学長, Sang-Geon Kim副大学長, Jin-Woong Kim教授の4名が1月21日(木)に薬学部を訪問しました。

本学部から松田研究院長・学部長, 井関教授(病院薬剤部長), 菅原教授が対応し, 北大薬学部及び大学院の概要並びに薬学教育制度に関

する説明を行いました。特に, 6年制実施に係わる新授業科目・シラバス並びに薬剤師養成に関して活発な意見交換が行われました。その後, 薬学部研究棟・病院薬剤部の見学を行いました。

今後, 韓国との学生交流及び学術交流がより一層推進されることが期待されます。



ソウル大学校Suh, Young-Ger大学長他3名と記念撮影

(薬学研究院・薬学部)



## 農学院・農学研究院・農学部において 「留学生新年会」を開催

農学院第24回留学生主催の新年会が、1月8日(金)に農学研究院の大講堂で開催されました。今年は9ヶ国(インドネシア、カメルーン、韓国、タイ、タンザニア、中国、バングラデシュ、フィリピンおよびミャンマー)の料理が250名以上の参加者に振舞われました。現在農学院では25ヶ国の留学生が学んでいます、

今年は1名しか在籍しないタンザニアとカメルーンの学生がそれぞれ自国の料理を紹介してくれました。また、バングラデシュの学生によるダゴールの歌の演奏とアフリカの留学生による踊りが会を盛り上げました。来年も新たな国の料理が披露されることでしょう。



留学生代表の挨拶



バングラデシュの学生による  
ダゴールの歌の演奏



アフリカの留学生の踊り

(農学院・農学研究院・農学部)

## 真冬の森の宝を見つけたよ！—雨龍研究林で「森のたんけん隊2010冬」を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、小学生を対象とした「森のたんけん隊2010冬」を1月14日（木）～15日（金）に雨龍研究林（雨竜郡幌加内町母子里）で開催しました（詳細は当センター森林圏ステーションのホームページ <http://forest.fsc.hokudai.ac.jp/~exfor/fr/> をご覧ください）。

森のたんけん隊は、名寄市北国博物館・幌加内町教育委員会と共同で開催している1泊2日の宿泊体験型野外教育プログラムで、冬休み中の子供たちに研究林のフィールドや施設を開放し、楽しく遊びながら自然の営みや森と人間のかかわりを学ぶことによって、健やかで個性豊かな人格形成と交流を促進するための地域連携社会教育事業です。

今年の森のたんけん隊には、名寄市と幌加内町のほか、札幌市や石狩市、士別市から総勢29名の元気な小学生が集まり、北海道大学の大学院生やOBの中学生たちがボランティアとして運営をサポートしてくれました。

初日は激しい風雪の中を、初めてカンジキをはいたとは思えないほど元気いっぱい雪の上を駆け回り、森の中に取り付けられたクイズを解きながら樹木の名前を覚えたり、方位磁石の使い方や雪の温度の計測、さらには木の肌に触れながらその太さや高さを測りました。休憩の後は、焚き火で暖をとりながら、イグルーとスノーランタンを作りました。

イグルー作りでは、雪のブロックを運ぶ係、のこぎりでブロックの形を整える係、それを積み上げる係など、作業を分担し、協力して作りました。また思い思いの形のスノーランタン作りでは、出来上がったランタンにキャンドルを灯して幻想的な光世界を楽しみました。夕食後はペットボトルを使ったアイスクリーム作りに挑戦しました。チョコレート、抹茶、ジャムなど10種類のメニューの中から何を選ぶかあれこれ迷いましたが、お風呂上りに食べたアイスはどれもとてもおいしくて、みんな満足そうでした。



ハンドブックを片手に、森の中でクイズに挑戦



大きな輪尺を使って、森の樹木の身体測定



スノーランタンでファンタジックな光の世界



「西へ30m進め」七つ道具と巻物を持ち、雪の森で宝さがし

2日目は2台の雪上車に分乗して森の奥地へ出かけ、初日に学んださまざまな森の情報を思い出しながら、方位磁石や巻尺などの七つ道具を使い、巻物の指示を読み解きながら雪の中に埋められた宝箱を探しました。深い雪の中から無事に宝箱を掘り当てた瞬間には、森の中に歓声がこだましました。お昼のパーティーでバーベキューを堪能した後は、スノーモービルに乗って真っ白な雪原を駆け巡りました。最後に、「森のたんけん博士」の認定状をもらって、2日間のたんけんを締めくくりました。

子供たちは体と心で自然や友達との対話を楽しみ、ちょっぴり遅くなって家に帰りました。「森の中で動物の足跡を見つけて嬉しかった」、「新しい友達ができた」、「おいしいアイスクリームが作れた」、「スノーモービルにいっぱい乗れた」、「また来年も来たい」、などの感想が寄せられ、年末から準備作業に携わった職員の苦労も吹き飛びました。森のたんけん隊での経験を糧として、自然観察の面さを学び、友達との交流が今後も広がっていくことを願いながら、10回目の節目となる森のたんけん隊が終了しました。

(北方生物圏フィールド科学センター)

## 角帽など新制大学の初期資料を大学文書館で受贈

2月1日（月），大学文書館では，北野隆志氏（1956年文学部卒業），小倉誠氏（1957年農学部卒業）より，1950年代の在学・卒業関係資料を寄贈いただきました。

受贈した資料は，北野隆志氏から角帽・卒業証書・学位記の計3点，小倉誠氏から角帽・卒業証書・身分証明書・学生証の計4点です。いずれも，戦後の新制大学初期の学生生活を物語る資料です。

角帽は，戦前から長く大学生の象徴であり，大学生の矜持を示すものでした。中学校・高等学校までは学生帽として天井部分が丸い「丸帽」を着用するのが普通でしたが，大学生になると天井部分が座布団のような四角形をした「角帽」を被ることができました（漫画「サザ

エさん」の磯野カツオ君が被っているのは「丸帽」，漫画「フクちゃん」の主人公フクちゃんこと福山福一君が被っているのが「角帽」です）。戦後もしばらく大学生の角帽文化は続きますが，1960年前後になると角帽はしだいにキャンパスから姿を消していきます。受贈した両氏の角帽は，戦前の流れを汲む学生文化の最後の姿をとどめるものです。また，ところどころ縫い目の綻びや汚れが目立ち，愛用の程をうかがうことができます。

大学文書館では受贈資料を大切に所蔵し，展示等の企画に供して，多くの方々に受贈資料から当時の学生の様子を知っていただきたいと考えています。



角帽と学生証（1950年代）

左が北野隆志氏の角帽，右が小倉誠氏の角帽・身分証明書・学生証

（大学文書館）

## 総合博物館土曜市民セミナー 「素晴らしき国ルーマニア」が開催される

総合博物館では1月9日(土)土曜市民セミナーで本学留学生による自国紹介を開催しました。講師はモハンマド・トウフィック・アラム氏(バングラデッシュ人民共和国)とクリス・ダヴィデスク氏(ルーマニア)です。

セミナーでは、まずアラム氏からバングラデッシュ人民共和国の独立にいたる歴史について説明がなされ、ダッカ大学の解説や日本では考えられないような盛大な結婚式の様子などが

紹介されました。次に、ダヴィデスク氏からルーマニアの首都ブカレスト、チャウシェスク時代の残したものの、地方の質素で堅実な生活、美しい自然、また体操選手コマネチ、ワラキア公ブラド3世などが紹介されました。セミナーに参加した90名を超える市民は熱心に受講していました。講演後、多数の参加者からは産業構造や日本との関係などについて質問が寄せられました。



講演するダヴィデスク氏(上)とアラム氏(下)



新年のお祭り(バングラデッシュ人民共和国)

北大総合博物館セミナー  
～土曜市民セミナー(通民カレッジ連携講座)～

素晴らしき国ルーマニア

クリス・ダヴィデスク氏(北海道大学留学生協議会・HUISAI)

皆さんルーマニアの世界へご案内します。日本人の皆さんには、体操選手コマネチの話題が知られていないと思いますが、ルーマニアはこれ以外にも、もっと面白いところがたくさんあります。ルーマニアの歴史、地方行事のことから、ワラキアの定数編隊やキルメに開かれた博物館、さらにはルーマニアの観光文化に至るまで、知られざる新しいルーマニアを皆様にお知らせします。ルーマニアの真実を知るなら、新しいルーマニアを体験したい方は大歓迎いたします。もっと詳しい情報はぜひお問合わせください。

平成22年1月9日(土) 午後1時30分～  
北海道大学総合博物館1階「知の交流」コーナー 入場無料  
※定員は約50名となります。それ以上は立ち見となりますのでご了承ください。

お問い合わせ先：北海道大学総合博物館 総務課(TEL: 011-326-2658 or 2607)まで  
博物館ホームページ <http://www.museum.hokudai.ac.jp/activity/seminar/>

ポスター

(総合博物館)

## 総合博物館でパラタクソノミスト養成講座を開催

総合博物館では、平成16年より、学術標本やサンプルを正しく同定し、整理する能力を有し、環境調査・教育において必要とされる人材である「準分類学者（パラタクソノミスト）」を養成することを目的にパラタクソノミスト養成講座を開催しています。平成20年度の後半か

らは北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」のもとで開催してきました。今年度は、計24講座が開講されており、1月には下記の日程で、木製品パラタクソノミスト養成講座（初級）が開催され、多くの市民や学生が参加し、熱心に取り組んでいました。

### 木製品パラタクソノミスト養成講座（初級）

1月23日（土）に、埋蔵文化財調査室の守屋豊人氏、農学研究院の佐野雄三氏、渡邊陽子氏を講師に迎え、総合博物館で開催され、学生や市民ら10名が参加しました。

まず、講師3名の自己紹介があり、次に、守屋講師の指導のもと、木製品の観察実習と講義が行われました。実習では、参加者一人一人に木製品が1つずつ渡され、観察を行い、大きさや形態などの木製品の情報の記入を行いました。また、講義では、考古学的観点からの木製品の観察、自然に埋まった樹木と木製品の違い、木製品のような人工的な痕跡を認識するための方法や観察方法についての説明を受けました。その後、実際に板のサンプルが渡され、丸太からどのように切り取ったものか（木取り）を考察してもらい、各自発表してもらいました。各参加者は、事前の講義を参考に、考察に挑戦し、初めてとは思えないくらい正確な分析結果を発表していました。引き続き、守屋講師

より、木製品の種類をどのように区別するのかについての説明がありました。

午後からは、まず佐野講師による樹種の同定についての講義が行われ、その後、樹種を同定するためのプレパラート標本の作製実習に移りました。佐野講師によるデモンストレーションの後、実際にプレパラート標本を作成しました。木片をカミソリで薄く切ることを意識しながら、参加者は、熱心に取り組んでいました。標本が完成すると、検索表に出てくる各組織についての説明を受けながら、光学顕微鏡を用いて標本観察を行い、サンプルの樹種の同定に挑戦しました。

最後に、守屋講師による北大で発掘された木製品についての講義を受け、講座の最初に渡された木製品を改めて観察し、講座で学んだことを振り返りながら、木取り、分割、面取り、木製品の種類などについての考察を行い、本講座は終了しました。



プレパラート標本の作成方法について指導する佐野講師と参加者



解説する守屋講師



木製品を熱心に観察する参加者

（総合博物館）

## 北大教育GP主催公開研究会「フィンランドの『教えない教育』」開催

第3回公開研究会が、第1回、第2回に引き続き、理学院自然史科学専攻／高等教育機能開発総合センターの池田文人准教授を講師に迎え、「フィンランドで先生になるために」と題して、1月23日(土)に総合博物館1階「知の交流」コーナーにおいて開催されました。

今回は、まず、前回、前々回のおさらいをし、続いて、フィンランドにおける先生の役割について、「先生は何をしているのか」、「どうしたらなるのか」、「どのような資質を求められているのか」、「教員養成課程ではどのような教育がなされているのか」といった観点から講義していただきました。

フィンランドの先生は、社会的立場が極めて高く、尊敬される、あこがれの職業であること、医師や弁護士と同じ専門職であり、教育の研究者であることが求められること、生活指導や課外学習は先生の仕事ではなく、教育に専念でき、平均労働時間も日本に比べ少ないこと、など日本とは異なるフィンランドの現状についてお話していただきました。そして、フィンランドの先生の役割は、情報伝達者や講義者ではなく、知識を自分なりに構成していく方法論を教えることであり、このため、子供たちは一人一人異なってよく、それぞれのメタ知識の獲得を

支援しているということ、授業の様子や教科書の内容に触れながらご説明いただきました。また、フィンランドの高校卒業資格試験や大学入試を例にとりながら、先生に求められる資質や能力についてお話しいただいたほか、オウル大学を事例に、研究に基礎を置き、教育実習に重きを置くフィンランドの教員養成課程についても詳しくご説明いただきました。フィンランドの教育は、知識は到達するものではなく、それぞれが作り上げるものであるという知識観のもとで展開されており、先生もまた、その知識観に基づいて教育を展開しており、そうした教育を行うことが求められていることを意識させられる話題提供でした。

池田先生からの話題提供の後の質疑応答では、現職の教職員からは、フィンランドと日本の先生の仕事量の違いや、フィンランドにおける家庭学習、あるいは、フィンランドの教育の良い部分を日本の教育に活かすためには、などについて現場の実情を交えた質問や意見も出されたほか、「小学校1年生からあれだけの教科書をこなせるのはなぜか」や、「なぜ、中学や高校においても能力別に分けることをしないのか」、など多くの意見や質問が寄せられ、研究会らしい活発な議論が展開されました。



研究会の様子

(総合博物館)

## 第8回北海道大学教育GPセミナー 「文化コーディネーターと町づくり」開催

総合博物館では、北海道大学教育GPによる北大の教育システム改善のための議論や取り組み、活動が学内にとどまることなく、広く理解と協力が得られること、そして、日本の大学教育の質の向上に寄与することを目的に、平成21年1月より、教育GPセミナーを実施しています。

今回は、1月30日（土）に、京都文教大学人間学部文化人類学科・教授の橋本和也先生、教務部研究支援課の山中耕先生、教務部研究支援課の金子正徳先生を講師にお招きし、地域の「文化力」を結集し、新たな価値の創造を目指す「モノ・ひと・地域を活かす大学ミュージアム」の活動や、モノ・ひと・地域を結びつけ、地域の活性化に貢献できる人材の輩出を目指す「文化コーディネーター」養成プログラムなどについて講演していただきました。

まず、橋本先生より、特色GPおよび教育GPの採択に至るまでの経緯として、京都文教大学の文化人類学科の設立から、文化人類学の先駆的な取り組みとしての「双方向的なアクション・リサーチ」を基礎とした「『（人と人を結ぶ）地域まるごとミュージアム』構築のための研究」、「まるごと・いろいろ・たからものー『地域まるごとミュージアム』のひとつの試み」といった取り組みなどについてお話いただきました。続いて、山中先生より、京都文教大

学のロケーションや宇治市という地域、文化人類学科という特徴にふれながら、「市民との協働により学生の気づきや成長を促し、市民活動を率先して担うことのできる人材の養成を目的とした特色GP」、「発見した地域の文化資源を発信し、地域を元気にすることのできる人材の育成を目的とした教育GP」という2つのGPについてと、それらのGPを支えるフィールドリサーチオフィスの活動についてお話しいただきました。そして、最後に、金子先生より、教育GPの核を担う文化コーディネーター養成プログラムとその背景となった国内・海外での長短期のフィールドワーク、そして、その成果を発信する大学ミュージアム活動（モバイルミュージアム、ヴァーチャルミュージアム）についてお話しいただきました。

平成15年から継続的に、発展的に行われてきた数々の地域連携型プロジェクト、学生プロジェクト、そして、特色GPや教育GPのもとで行われてきた数多くの取り組みから学ぶことは多く、「継続は力なり」を改めて実感させられた講演でした。また、共通点の多い教育GPプログラムであることから、距離は離れているものの、大学という枠組みを超えた協働や連携を視野に入れながら、良きライバルとして切磋琢磨できる関係を築くことを考えさせられるようなたいへん有意義な講演でもありました。



講演する橋本氏



講演する山中氏



講演する金子氏

(総合博物館)



## 平成21年度大学教育改革プログラム合同 フォーラムに参加

去る1月7日(木)、8日(金)、東京ビックサイトにて、文部科学省・財団法人文教協会主催の「平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」が開催されました。平成20年度に採択され、2年目を迎える本学の教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」もポスター発表を行い、本取組の成果を広く発信するとともに、全国で推進されている魅力的な教育プログラムと情報交換を行いました。

本学が推進している教育GPは、本学の学内共同教育研究施設であり、様々な部局の学生が集うことのできる総合博物館を核としています。この利点を活かし、学部や専攻の枠を越えて講義や体験型科目に参加するシステムを整え、「HOKUDAIミュージアムマイスター」認定コースを設置しています。これにより、北大の教育理念である実学の精神を身につけ、所属する専攻にとらわれないものの見方のできる人材の養成を図っています。推進中のプログラムや授業科目、終了したシンポジウム・セミナー等の情報については、ホームページ<<http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/projects/edu-gp08/>>をご覧ください。

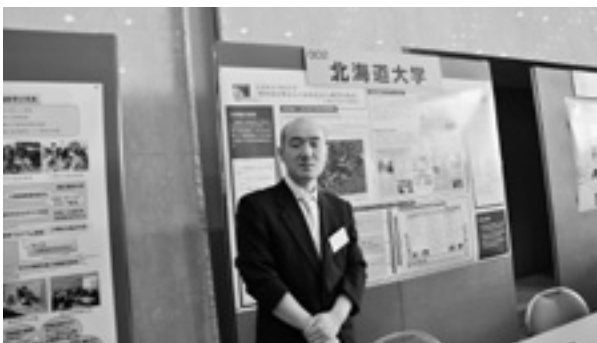
本学の教育GPが参加した2日目のポスターセッションでは、平成20年度に教育GPに採択された100件の取組が、これまでの成果や今後の課題等について情報を発信しており、本学教育GPを今後推進していく上で非常に有意義な

ものとなりました。

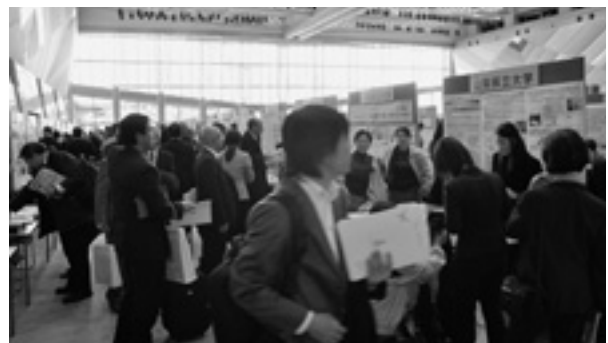
ほぼ全てのプロジェクトが学部や学科間、大学間、産学間など、それぞれのユニットの特色を活かしつつ連携し、横のつながりを強化する形で推進されています。本学の教育GPが核としている総合博物館のような部局は、学内での位置づけとしては連携に有利ですが、プロジェクト終了後にカリキュラムや諸プログラム等を継続して行う場合には、他部局等との連携により効率よく進めていく必要があると感じました。

また、京都・岡山地区に存在する「大学コンソーシアム」では、高校生を含む学生、教職員、市民、社会人、行政、産業などが一体となり、地域性を活かした若手人材育成と交流の活性化を行っており、当該地域の学生は他大学の単位を振替取得することができるため、学習と経験の幅が広がるという効果が得られています。北海道の場合は、その広大さがネックですが、本取組も同様に、美術、音楽、デザインなどを学ぶ学生との交流の場を提供することにより、本学の学力や人間性をさらに幅広く、魅力的なものにすることができると考えています。

本学教育GPにより、多様な可能性を持った人材が輩出されることが期待できることから、今後は、各部局との密な連携によるプロジェクトの推進を目指したいと考えています。



北海道大学教育 GP ブースで説明する  
教育コーディネーター齋藤氏



合同フォーラム会場の様子

(総合博物館)

## お知らせ

### 札幌キャンパス過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

職種・系区分		過半数代表候補者
教員系	文学系	(文学研究科) 白木沢 旭 児
	理学研究院	(理学研究院) 森 濟
	工学研究科・情報科学研究科	(工学研究科) 谷 津 茂 男
	上記以外の理系	(北方生物圏フィールド科学センター) 神 沼 公三郎
	医学系	(歯学研究科) 川 村 直 人
附置研究所・全国共同利用施設系		(遺伝子病制御研究所) 吉 山 裕 規
事務系職員	(附属図書館)	永 山 裕 子
	(企画部)	野 口 明 広
技術系職員		(遺伝子病制御研究所) 山 口 桂
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員		(工学研究科) 菅 原 健 治
		(医学研究科) 富 永 多映子

(総務部職員課)

### 函館キャンパス過半数代表候補者の決定

函館キャンパス事業場における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

職種区分	過半数代表候補者
教員	松 石 隆
事務系職員	当 山 千鶴子

(総務部職員課)

## 全学停電(平成22年度)の予定

日ごろ、各部局の皆様には学内電気設備の維持管理に関し、ご理解とご協力を頂きありがとうございます。

また、昨年9月13日に実施した全学停電につきましては、皆様のご協力により無事終了出来ましたので、ここにお礼申し上げます。

さて、本学自家用電気工作物保安規定に基づく平成22年度の「定期点検」は下記日時を予定しており、その間は全学停電となりますので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

### 今年度の定期点検の様子



### 記

- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 1. 停電月日   | 平成22年9月12日(日)                 |
| 2. 停電時間   | 8時00分～18時00分                  |
| 3. 停電範囲   | 全学                            |
| 4. 問い合わせ先 | 施設部施設保全課電気保全担当 松川・池森(内線 3193) |

(施設部施設保全課)

## 〈共済組合員の皆様へ〉 被扶養者の認定または取消等の届出は速やかに

新たに被扶養者として認定となる場合、または被扶養者としての資格を失う場合は、組合員証を添えて「被扶養者申告書」を下記の添付書類とともに、速やかに(30日以内)所属部局の共済事務担当係へ提出願います。

なお、届出が30日を超えると、組合員の皆様に不利益が生じる場合がありますのでご注意ください。

### ○新たに被扶養者となる場合（認定）

1. 子供が生まれたとき……………戸籍謄本等
  2. 結婚したとき……………戸籍謄本、扶養の申立書等
  3. 会社を退職したとき……………戸籍謄本、扶養の申立書及び雇用保険関係書類等
- ※配偶者の認定の場合は、同時に国民年金の変更手続きも必要となります。  
詳細につきましては、所属部局の共済事務担当係へお問い合わせください。

### ○被扶養者が満22歳に達し、翌年度以降も引き続き扶養する場合（認定更新）

★「扶養の申立書（認定更新用）」の添付は必須。

1. 学 生…在学証明書（平成22年4月以降の発行年月日のものに限る）
2. 無 職…前年分（平成21年分）の所得の内訳が証明された所得（課税）証明書（市町村交付）
3. アルバイト等…給与支給（見込）等証明書（平成22年4月～平成23年3月の1年間分）

注意）・平成21年検認時の申告が、「無職」の場合は、前年分（平成21年分）の所得の内訳が証明された所得（課税）証明書の添付も必要となります。

・平成22年4月以前よりお勤めされている場合は、平成21年検認時提出分以降から（検認後からお勤めされている場合は採用日から）平成22年3月就労分までの実績の証明も必要となります。

※平成22年4月中に、速やかに手続きをお願いします。

※外国の在学証明書等には、必ず和訳を添付願います。

※所得（課税）証明書については、例年5月中旬以降より前年分の所得内訳が証明されたものが交付されるため、5月中旬以降速やかに提出願います。

### ○被扶養者としての資格を失う場合（取消）

1. 就職したとき…採用の辞令の写しまたは就職証明書等（採用後の発行年月日のものに限る）
2. 死亡したとき…戸籍謄本または埋葬許可証若しくは火葬許可証の写し
3. 所得が増えたとき…給与支給（見込）等証明書、年金受給者の場合は年金証書または年金改定通知書の写し及び申立書

※将来に向かって1年間（注1）に130万円以上、または①月額108,334円以上の収入が2ヶ月以上引き続き見込まれるとき、②3ヶ月間の平均月額が継続的に108,334円以上となることが見込まれるとき（その後、無職無収入となることが確定している場合も含む）は、恒常的所得とみなし、見込まれる時点（給与の支

給日ではなく、就労開始日等、被扶養者としての要件を欠くに至った事実が生じた日)において取消となります。

(注1) 暦年(1月～12月)または会計年度(4月～翌年3月)という特定の期間の所得ではなくどの時点からも将来にわたり見込まれる所得です。

★年末調整における所得の見方とは異なりますのでご注意願います。

※①, ②いずれの場合も、年額130万円未満であったとしても取消となります。

※給与所得とは、通勤手当や賞与等の諸手当を含み、税金等控除前の給与所得総額を指します。手取りの金額ではありませんのでご注意願います。

※給与支給(見込)等証明書の様式については、所属部局の共済事務担当係より指定された様式を使用し提出願います。

※事業所得等については、経費の考え方が所得税法上とは異なりますのでご注意願います。

#### < 注 意 >

①被扶養者としての資格を失っているにもかかわらず、扶養取消の手続きをせずに医療機関等で組合員証を使用した場合は、後日その分の医療費を返還していただくことになります。

特に、例年9月の組合員証等の検認時、あるいは所得税法上の所得調査等の関係で所得額超過が発覚し、高額な返還金が発生する事例が数多く見受けられますのでご注意願います。

②取消の届出が30日を超えてなされた場合は、上記の添付書類の他に「遅延申立書」が必要となります。(届出の遅延につきましては、財務省等の監査時においても厳しい指摘を受けていることから、速やかに届出をお願いします。)

③認定・取消、いずれの場合も必ず事実発生日を確認できる公的な書類及び証明書等の添付が必要となります。申立書のみでの認定・取消をすることはできませんので、ご承知おき願います。

④戸籍謄本等の証明書類については、3ヶ月以内に発行されたものを添付願います。

⑤共済組合への提出書類の訂正は、必ず訂正印を使用願います。(砂消・ホワイト不可)

⑥申告書、申立書等の申告者等氏名については、必ず署名(ゴム印等不可)となりますのでご注意願います。

⑦申告書等への押印については、シャチハタ以外の印鑑を使用し、鮮明に押印願います。

上記については一般的な例であり、この他にも認定または取消の対象に該当する場合がありますので、被扶養者に異動があったときは、速やかに所属部局の共済事務担当係にご相談願います。

また、お引越しをされて住所が変更になった場合は、組合員証を添えて「記載事項変更申告書」を所属部局の共済事務担当係へ提出願います。申告をせずにご自身で組合員証等の記載事項を加筆修正することは認められておりませんので、ご注意願います。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

レクリエーション

方円会が北大囲碁部との交流会を実施  
—全日本学生囲碁選手権大会に向けて「檄を飛ばす会」—

去る12月12日（土）の午後、本学方円会（教職員囲碁同好会）が、高等教育機能開発総合センターに、北大囲碁部（学生）を招いて恒例の「交流会（壮行会）」を実施しました。

全道アマ上位クラスの八段格から初段位まで、学生・教職員それぞれ10名ずつが参加し、一人当たり2～3局の交流碁を楽しみました。方円会会長で学生囲碁部顧問の藤田教授が遅れて参加のため、前会長の南部名誉教授（文学研究科）から激励の挨拶があり、引き続き、学生・教職員双方の参加者からユニークな自己紹

介が行われました。交流碁は、終始和やかな雰囲気で行われ、会場中央に掲げられた「檄 北大囲碁部」の横断幕が光っていました。

学生さんたちからは、「北大囲碁部の全日本学生囲碁選手権大会における成績は、ここ数年間5・6位と健闘しておりますが、昨年久しぶりに全国学生十傑戦で8位に入賞した2年生がおり上位陣も充実しているので、是非3位（国立大学法人のトップ）をめざして奮闘したい」との力強い決意表明がありました。



和やかに交流碁を楽しむ学生・教職員の様子と「檄 北大囲碁部」の横断幕

（北大方円会）

研 修

研修名（主催部局名）	開催期間	開催場所	研修目的
平成21年度北海道地区 国立大学法人等事務情報化 講習会（ACCESS中級） （企画部情報企画課）	平成22年1月20日 ～平成22年1月22日	北海道大学 情報基盤センター北館	北海道地区国立大学法人等の事務職員に対して、業務システムのデータを利用し、Accessを業務の道具として有効に活用するための（Access中級程度の）知識並びに基本的な情報セキュリティ等の基礎知識を習得することを目的とする。

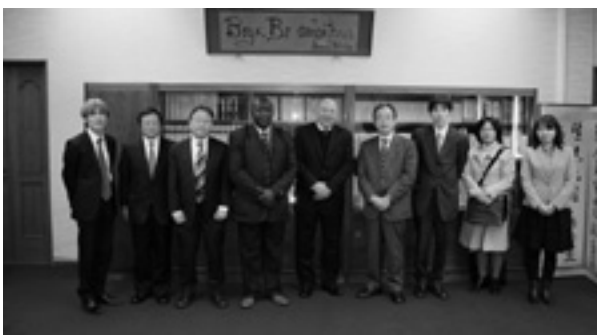
# 表 敬 訪 問

〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
22.1.18	IAU 国際活動評価委員一行	国際活動評価現地調査のため
22.1.18	駐日フィンランド大使館 ヤリ・グスタフソン 大使	創成研究機構視察のため
22.1.21	韓国海洋大学校工科大学 Joong-Woo Lee 学長	工学・情報科学研究科との研究交流のため
22.1.22	駐日スロバキア共和国大使館 ドゥラホミール・シュトス 大使	スラブ研究センター視察のため
22.1.26	ブルキナファソ国際水環境学院 Paul Ginies 学長	工学研究科との部局間交流協定調印のため



IAU国際活動評価委員一行

駐日フィンランド大使館 ヤリ・グスタフソン 大使  
(右から4人目)韓国海洋大学校工科大学  
Joong-Woo Lee 学長(右から3人目)駐日スロバキア共和国大使館  
ドゥラホミール・シュトス 大使(右から3人目)ブルキナファソ国際水環境学院 Paul Ginies 学長  
(右から5人目)

(学術国際部国際企画課)

## 同窓会との交流

### － 恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」 －

1月30日（土），氷雪の門（札幌）で，恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」が開催され，現寮生の学生から年配の方まで幅広い年齢層の会員が集い，本学からは，逸見理事・副学長が参加しました。

当日は，最初に同会の繁富一雄名誉会長の白寿お祝いの会が行われ，引き続き行われた恵迪寮同窓会北海道支部総会の後，新年寮歌歌始め

の会が開催されました。同会横山清会長の挨拶に次いで，本学から逸見理事・副学長が挨拶をし，その後鏡開きが行われ，乾杯の後，宴会となりました。

宴会では，ドイツ語訳された「都ぞ弥生」が初披露され，北大合唱団OBらの指導で合唱するなど，学部や地域，年齢を越えた会員の皆さんが，寮歌を歌い懇談され旧交を温めました。



（総務部広報課）



## 諸会議の開催状況

**役員会** (平成22年 1月12日)

- 議案**・中央キャンパス総合研究棟(仮称)の利用方法について
- 協議事項**・第二期中期目標・中期計画について
- ・平成22年度年度計画の重点事項について
  - ・理学部の学科の名称変更について
  - ・脳科学研究教育センターの時限延長について
  - ・全学教育における退職教員(本学定年年令を超える者)の非常勤講師の採用について
  - ・予備問題作成に伴う入試手当額の見直しについて
- 報告事項**・低温科学研究所の改組について
- ・医学部医学科の入学定員増に係る意見伺い結果について
  - ・科学技術コミュニケーション教育プログラムについて
  - ・科学技術振興調整費評価結果報告書について
  - ・サステナビリティ・ウィーク2009の報告並びにサステナビリティ・ウィーク2010の開催について
  - ・キャンパス・サステナビリティに関する提言について
  - ・「達成状況に係る確認書」及び「現況分析に係る状況確認書」について
  - ・北海道マラソンの開催日程変更について
  - ・大学サイエンスフェスタについて
  - ・平成22年度政府予算案について
  - ・主要取引銀行及び外国送金業務銀行について

**教育研究評議会** (平成22年 1月19日)

- 議題**・第二期中期目標・中期計画について
- ・理学部の学科の名称変更について
  - ・脳科学研究教育センターの時限延長について
  - ・全学教育における退職教員(本学定年年令を超える者)の非常勤講師の採用について
  - ・大学間交流協定の新規締結について
  - ・国立大学法人北海道大学人事委員会規程の一部を改正する規程について
- 報告事項**・全学運用教員の措置について
- ・北海道大学プロフェッサー・ビジット2009について
  - ・低温科学研究所の改組について
  - ・医学部医学科の入学定員増に係る意見伺い結果について
  - ・学生の懲戒解除について
  - ・国際交流協定校との学生交流に関する申合せについて
  - ・地域産学官共同研究拠点整備事業の採択について
  - ・平成22年度政府予算案について

**役員会** (平成22年 1月25日)

- 議案**・理学部の学科の名称変更について
- ・脳科学研究教育センターの時限延長について
  - ・全学教育における退職教員(本学定年年令を超える者)の非常勤講師の採用について
  - ・国立大学法人北海道大学人事委員会規程の一部を改正する規程について
  - ・目的積立金について
- 報告事項**・株式会社電通北海道との連携協定の継続について
- ・平成21年度第2次補正予算案について

規程の制定, 改廃については, 「学内規程」欄に掲載しております。

## 学 内 規 程

### 北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程

(平成22年2月1日海大達第3号)

平成22年2月1日付で、低温科学研究所に新たな研究分野を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 人 事

#### 平成22年1月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 (辞職)	上 田 清 香	北海道大学病院看護部看護師

#### 平成22年1月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 電子科学研究所附属ナノテクノロジー 研究センター准教授	松 尾 保 孝	電子科学研究所附属ナノテクノロジー 研究センター助教

#### 平成22年1月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【係員】 (辞職)	堀 希 世	北海道大学病院医事課医療支援室
【技術職員】 (辞職)	河 野 尚 子 三 浦 文 華	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

#### 平成22年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 水産学部附属練習船おしよろ丸准教授 大学院理学研究院准教授	亀 井 佳 彦 相 馬 雅 代	水産学部附属練習船おしよろ丸助教 採用
【技術職員】 水産学部附属練習船おしよろ丸操舵手 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師	佐々木 大 輔 外 崎 結 華 齋 藤 ちひろ	水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員 採用 採用

## 〈編集メモ〉

▼北海道大学美術部「黒百合会」有志による「飲みにくい器展」が交流プラザ「エルムの森」で開催されます。飲みにくい器ばかりを集めたユニークな展覧会です。最終日には飲みにくい器での茶話会も行われます。一般の方もご参加いただけますので、お気軽にお越しください。

### 北海道大学美術部黒百合会 「飲みにくい器」展

期 間：3月9日(火)～3月19日(金)  
(土日休館) 9:00～16:30  
(最終日は15:30までの開催。建物  
への入館は可能)

茶話会：3月19日(金) 14:00～15:30  
会 場：北大交流プラザ「エルムの森」  
(札幌市北区北9条西8丁目)



2008.8.10 襟裳岬

——— 北の息吹④ エゾルリトラノオ (*Pseudolusimachion kiusianum* ssp. *miyabei*) ———

近縁のヒメトラノオやヤマリトラノオは姿形が良く花の色も上品であり、クガイソウほど大きくもないので茶花としてよく使われる。エゾルリトラノオの花にお目にかかったのは一昨年が最初であるが、これもまた上品な野草である。ただし、この仲間の常として花穂が良く分裂するので、ほめ言葉は一本立ちの花に限定してのこと。また、クワガタソウ属に分類されるだけあって、雄しべが花から突き出すのもちょっとうるさい。これらの欠点を差し引いても、真夏の海岸地帯では貴重な花である。

理事・副学長 岡田 尚武

**北大時報② February 2010 No.671**

平成22年 2 月発行

北海道大学総務部広報課

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http : //www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/